

【認知症対応型共同生活介護用】

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 6月 25日

【評価実施概要】

事業所番号	0793230012		
法人名	有限会社 T & T		
事業所名	認知症高齢者グループホーム 高原の家かわうち		
所在地	福島県双葉郡川内村大字下川内字田ノ入18の3 (電話) 0240-39-0561		
評価機関名	福島県社会福祉協議会		
所在地	福島県福島市渡利七社宮111		
訪問調査日	H20.6.12	評価確定日	H20.7.25

【情報提供票より】(平成20年5月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 8人, 非常勤 2人, 常勤換算 5.8人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円		

(4) 利用者の概要(5月31日現在)

利用者人数	9 名	男性	4 名	女性	5 名
要介護1		要介護2		2 名	
要介護3	4 名	要介護4		3 名	
要介護5		要支援2			
年齢	平均 86.8 歳	最低	78 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	さくらクリニック、今村病院、川内村国民健康保険診療所
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

川内村のほぼ中心地に位置しているこのホームは、豊かな緑に囲まれ、静かな環境の下、利用者が生活している。玄関を入ると木製の椅子が用意され高齢者への配慮が感じられる。各居室にはトイレが付いており、木製のベランダも備わっている。なるべく木材を使うことによって、木の柔らかさ、温もりを感じてもらおうという開設者の心意気が感じとれる。また、「異體同心(いたいどうしん)」(1人1人の姿、形は別でも介護に対する心はひとつ)をという理念を職員は十分理解した上で日々実践している。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果を踏まえ、ホーム長、管理者、運営部長が中心になり、話し合いや、会議等を重ね改善に取り組んだ。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果で指摘あった「取り組みを期待したい内容」を再検討し、スタッフ全員で改善に取り組んだ。その上に立ってさらにサービスの向上を目指している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5)
	運営推進会議は今年度は六回の開催を予定している。事業所からの報告だけでなく、議題を決め、それに添った形で意見をもらっている。会議の内容は事業所として、今後の活動の方向性等に参考にしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	ご意見箱を設置しているが、これまで利用された方はまだいない。しかし、家族が訪問された時には、職員の方から積極的に声をかけ、意見を得るようにしている。また、通常時においても電話連絡を密にしており広報誌も発行している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	訪問してくれる団体、個人との交流はもちろん、積極的に地域に出向いていっている。(保育所、小学校、学習発表会時等)また、散歩の折近所から、「お茶でもいかがですか」と声が掛かる事等があり、ホームが地域に根ざしつつある。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義とサービスに対する心構えを職員間で話し合い「異體同心(いたいどうしん)」という理念を作りあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取組んでいる	朝のミーティング時には、理念を復唱し「異體同心(いたいどうしん)」を介護の場で実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	意識的に 地域に出向いて行くような取り組みを、ケアの方針にしている。具体的には近隣の保育所、小学校等の行事に出かけたり、地元老人会とも連絡を取り交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価を踏まえ、改善すべき点や新たな課題を職員全員で話し合い、具体案を検討しながら、サービス向上につなげている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議のメンバーは、家族代表、民生委員、老人会会長、地域包括支援センター、行政、そしてホーム長で構成されている。ホームからの報告が主であるが、今年度開催予定の議題は決まっており、また次回の議題は火災時の避難に関する内容で、助言してもらうという事である。</p>		
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ホームの広報誌を発行家族に配布している。家族来訪時にはそのつど利用者の様子を報告するだけでなく、不明な点、疑問に思っている所等、家族の意見をケアに反映させている。また、電話による利用者の状況報告も密にしている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を設置しているが、これまでのところ使われたことはない。家族来訪時には、忌憚の無いお話をという雰囲気づくりに留意している。広報誌の発行を継続してほしいと家族から要望があり、継続して発行することとした。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>管理者は馴染みの関係の重要性を認識しており、極力退職者を出さない様心配りをしている。</p>		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修会には主に管理者が出席している。その内容は内部研修会において伝達されている。職員は北浜地区グループホーム連絡協議会への研修会へ参加している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県および北浜地区グループホーム協議会に加入している。事業所にある檜(やぐら)や太鼓等を、他事業所に貸し出したりなど、主に行事の際に交流を図っている。また月一回の地区包括支援センター主催の「ケアマネジメント支援勉強会」に参加し、ケアの質の向上を図っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者本人の好きな事、得意なことを教えてもらい、それを会話のきっかけにしながら、昔話や戦争で苦労した事その他、もったいない精神等について職員も学ぶという関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居にあたっては、生活暦や、本人の習慣、嗜好等の情報収集に努めている。入居後も本人の意向に答えられる様、ケアに取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者家族からの思いや意見を反映させるよう、介護内容の評価をスタッフ全員で共有し、介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は基本的に三ヶ月ごとに見直しを行っているが、期間にとらわれず、利用者の変化に応じて本人、家族と話し合いながら、臨機応変に介護計画を見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/	/	/

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診については、利用者、家族の希望を大切にし、受診際には職員が同行している。家族が付き添えない場合には受診結果を報告し、また、職員も共有している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化と終末期の方針は、利用開始時の重要事項の説明の中で、管理者と介護士が、出来ること、出来ないことを説明し話し合いながら、利用者家族と職員間で方針を共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーを守るということに十分留意している。面会者名簿については利用者個人々に用意されており、他の家族や外来者に分からない様、工夫をしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課にとらわれず、その人、その人の思いを大切に、本人の体調に配慮しながら、ある時は散歩、ある時は買い物等、本人の希望に添った支援に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食のメニューは決まっているが、昼食、夕食はなるべく利用者の希望に、添うような献立にしている。例えばドライブに出かけ、タラの芽を摘んできた時には、それが夕食の惣菜になり、食卓にのることもある。利用者は職員と共に食事する時間を楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴を希望する利用者にも対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	生活暦を参考に、得意な分野での力を発揮してもらっている。利用者の自主性を尊重しながら、草むしり、畑仕事、掃除当番など活力を失わないよう支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	利用者本人や家族の希望になるべく添う様、対応している。遠くはアクアマリン福島、夜ノ森公園の桜見物、また、近隣の散歩は日常的に支援している。外出の際は体調には注意している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかける事による弊害を、十分に認識しており、日中玄関に鍵はかけていない。居室にも鍵はかけていない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は、年2回職員のみが参加して実施しているが、夜間を想定した訓練はまだ行っていない。		避難訓練計画書を作成し、消防署に協力を依頼し、日中利用者も参加した避難訓練を行うと共に、特に夜間を想定した避難訓練を早急に実施してほしい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、栄養バランスは個々のケース記録に記入し、また協力医からも助言をもらい、偏った栄養にならない様注意し利用者への支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には洗面台やトイレが付いているため、トイレに行き易くなり、機能回復やオムツ外しに効果が見られる。 畳の居間、木調の廊下、天井の太い柱等、柔らかく穏やかな空間になっている。また各居室には、木造りのベランダがあり、利用者の好みで花の小鉢が置いてある。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者本人の気持ちを大切に、使い慣れた物や好きなものを、家族にお願いし居心地良く過ごせるよう配慮されている。		

 は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 認知症高齢者グループホーム 高原の家かわうち

記入担当者名 本田 由香

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目 を記入してから内容を記入してください。